

スポーツランド

ブーメランは

格闘技だ!

技と力で速く長く確実に

スポーツ競技として脚光

なぜ戻ってくるのか?

遠くに投げたつもりなのに、クルクル回転しながら手元に戻ってくるブーメラン。もともとオーストラリアの先住民・アボリジニが狩猟や戦闘に使用した。そのブーメランが最近、スポーツ競技として脚光を浴び始めた。既に世界的にブームになりつつあり、来年8月には神奈川県平塚市で世界大会が開かれる。

(望月 靖祥)

瞬発力、持久力が求められる。選手は削りたりの鉛板を握って重さを調整する。ブーメランの柄は、アボリジニが「く」の字形の飛び道具を指した言葉。それが最近、競技用にスピードや投げやすさを追求した結果、手裏剣のような三枚翼型が主流になった。材質はベニ板が主で、ほとんどの選手は自分で作っている。



ブーメランの端に鉛を張って浮力を調節する



ブーメランを背中からキャッチ。高度なテクニックが必要だ

時速100キロ、スリルいっぱい

カラフルで形もさまざまなブーメラン



なぜブーメランは戻ってくるのか。大塚大で数理学を教えるかたわら、ブーメラン研究会の顧問を務める西山豊・助教は「コマの動きと同じで説明する。コマは回転が落ちると倒れそうになると、グルリと円を描くように回り出す。これは回転運動体が持つ、自らの姿勢を安定させようとする性質のため。ブーメランは、一定方向に浮力を生じさせるため、飛行機の翼と同じように断面がかまぼこ型になっている。この浮力のため、地面と垂直に投げ出すと自然と横倒しになり、手元が戻ってくる。コマと同じ動きも起き、戻ってくるのだ。」

つまり、ブーメランが戻ってくるのは、コマと同じ原理で、高度なテクニックが必要だ。

来年8月には日本で世界大会

海外では一九七〇年代のラン研究会も誕生。国内初め、米国、オーストラリアなど大会で六人入賞の経験もある。日本では八二年に「日本ブーメラン協会」が発足。八六年には「日本ブーメラン協会」(東京、先光吉伸事務局長)に改組され、会員も二百人を超えた。

今年四月には大塚大で日本初の学生同好会「ブーメラン」が結成された。事務局長の先光吉伸は「世界大会を目指す」と意気込みを語った。

挑戦しませんか?

日本でされている種目とルールは以下の通り。

【正確さ】20m以上の距離を投げ、半径2m以内に戻れば10点。2m以内を2点減点、5回投げた総得点で争う。

【ファーストキャッチ】20m以上投げ、キャッチ。その動作を5回繰り返す。所要時間を競う。

【滞空時間】投げて捕るまでの時間を競う。50m以上の距離を投げた場合は倍。

【オーブ・ラウンド】飛距離、正確さ、キャッチを同時に競う。飛距離が長く、正確に届くほど得点は高く、キャッチの速さもポイントになる。

【トリックキャッチ】自由、右ま、左ま、両手でキャッチする。自由、右ま、左ま、両手でキャッチする。自由、右ま、左ま、両手でキャッチする。

こ 天竺黄(三十一日・東京)の懸賞金、メシロマツタイン(七七日)は十日の東京大賞典で優勝。連覇の目標。賞金100万円。賞金100万円。賞金100万円。

だ 此間で開催された天竺黄の懸賞金、メシロマツタイン(七七日)は十日の東京大賞典で優勝。連覇の目標。賞金100万円。賞金100万円。賞金100万円。

わ 宝塚記念二戦、テレビ愛知杯一戦と好走。賞金を積み重ねた。天竺黄(三十一日)は十日の東京大賞典で優勝。連覇の目標。賞金100万円。賞金100万円。賞金100万円。

り 彼から力をつけ、京阪杯で初重賞制覇。タフに走り続けた。天竺黄(三十一日)は十日の東京大賞典で優勝。連覇の目標。賞金100万円。賞金100万円。賞金100万円。